

スギ人工林におけるオオバクロモジの資源把握

1 背景・目的

オオバクロモジ(以下、クロモジ)はその芳香を活かして、アロマオイル、飲料などの特産品に利用され、県内で年間 20t 以上の需要が見込まれている。このため、スギ人工林内に生育するクロモジの生育環境を調査し、持続的な利用の可能性について検討する。

2 技術のポイント

- (1) スギ人工林内に生育するクロモジは、標高が高いほど資源量(生重量)が多くなる傾向がある(図 1)。
- (2) 谷地形より水はけのよい尾根地形に資源量が多い傾向がある(図 2)。
- (3) 良好な条件下では、刈払い後 5 年で 600~800kg/ha 程度の収穫が得られる。



写真 スギ人工林内のクロモジ
(個体の地上部が利用される)

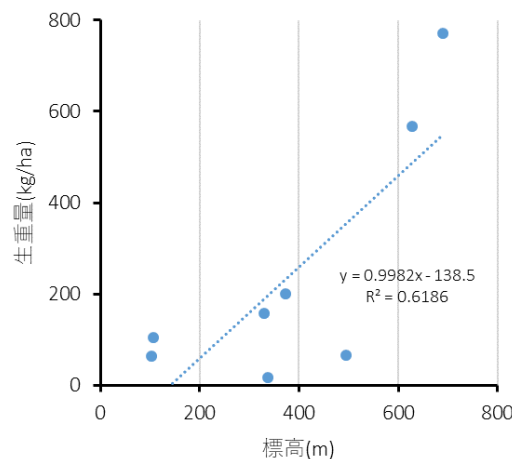


図 1 調査地の標高と生重量との関係

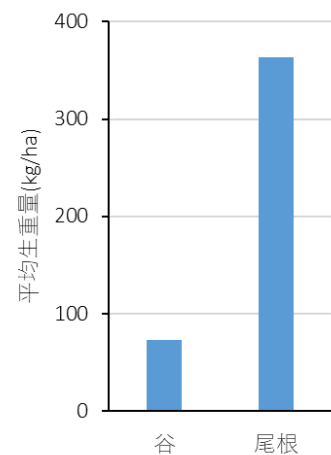


図 2 地形と平均生重量との関係

3 成果の活用と残された問題点

- (1) クロモジの収穫については、林業事業者が実施する人工林の保育作業時に併せて行うことで、コスト低減が期待できる。
- (2) 用途ごとに必要となる部位や量、大きさが異なるため、目的に応じた資源を確保できる現場であるか確認する必要がある。
- (3) 県内の加工事業者からの需要は、増えつつあるため、持続的な生産体制を構築する必要がある。

問合せ先：森林環境部 TEL 076-272-0673
担当者：富沢裕子・小谷二郎